

刊夕日二廿月一



定価一冊五銭
 廣告料五銭十行 一行五銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常盤宮日新聞社
 印刷所 常盤宮日新聞社
 電話 六三〇
 郵便 常盤宮日新聞社

宇宙の眞韻

眞 繼 雲 山

私が昔、催眠術を修行してゐた頃、その稽古臺にしてゐた乳臭の一書生が、いつの間にか帝大を卒業して今は某私立大学の講師をやつてゐる。月日は早いもので成る程こちらの頭の禿げて来るのに不思議はない。但しその講師といふのは、私とは宗旨違ひの水産専門の農學士様だ。

件(の)學士君が一日來り訪ふて、尋ねることには『先日佛教の本を一寸と借りて読んで見ましたが、よくは分りませんが、何ぞ佛敎入門書とでもいふやうな簡易なものはないのですか、いきなり眞如とか涅槃とかいはれてもその意味が、さつぱり分りません』といふことであつた。

成るほど佛敎は魚と違ふから學士さんでも分るまい。佛敎は初歩がそのまゝ奥儀である。尺八を稽古するのと同じに『黒髪』を敎へられるが、最後にまた黒髪が一人前に吹けるやうになると、尺八はモウそれで卒業だ。最初の黒髪も、後の黒髪も、黒かみといふ曲に變りはないが、初めと終りとは味が違ふ。佛敎も大も梅も櫻も、念佛も題目も皆んな或る一つの表現形式に外ならぬ。黙して已むことの出来ぬたゞ一つの大きな力の理はこれではなからうか。

私は佛前に坐し、無念無想にして佛心に契合したいと念ずるとき、いつも妨げになるのは宗派の異同といふことであり、人間のつくつた名字そのものである學問的に何ほど宗派の異同が餘儀ないにせよ、それは或る一つの物の説明に過ぎない。議論や説明は決して物それ自体ではない。八萬四千の法門に要するに物それ自体を見よである。

議論は宗教ではない。形式も亦た宗教ではない。但し形式の中に宗教はひそみ得る。たゞ佛前に木魚を叩いて無心に念佛するとき、遙けき久遠の淨土と脚底の娑婆との交通路は垣々として開ける。そこに法悦の輝やかしさは、我がたましいからひし／＼と湧き溢るゝことを感じざるはゐない。

淨土との交通路
 南無妙法蓮華經と唱へる題目の次に南無阿彌陀佛といふ名號を稱へることが何ゆゑ通らないのであらうか。成るほど題目には題目の信念があり、念佛には念佛の眞實さがある。それは同じ花といつても梅と櫻とのやうな違ひであらうことは、うなづき得る。けれど

も梅も櫻も、念佛も題目も皆んな或る一つの表現形式に外ならぬ。黙して已むことの出来ぬたゞ一つの大きな力の理はこれではなからうか。

私(は)佛(に)前(に)坐(し)、無念無想(に)し(て)佛(に)心(に)契(合)し(た)い(と)念(ず)る(と)き、い(つ)も(も)妨(げ)に(な)る(の)は(宗)派(の)異(同)とい(ふ)こ(と)で(あ)り、人(間)の(つ)く(つ)た(名)字(の)そ(の)の(と)こ(ろ)で(あ)る(學)問(的)に(何)ほ(ど)宗(派)の(異)同(が)餘(儀)な(い)に(せ)よ、そ(れ)は(或)る(一)つ(の)物(の)説(明)に(過)ぎ(な)い。論(議)や(説)明(は)決(し)て(物)それ(自)体(で)は(な)い。八(萬)四(千)の(法)門(に)要(す)る(に)物(それ)自(体)を(見)よ(で)あ(る)。

平町新川端(釜新宅向)
 電話五〇二番

内科 難波 陸
 醫學博士

東京市本郷駒込追分町
 (茶代不用) 上野驛ヨリ(自動車約二分 電車約十五分)

鑛駒込館
 一泊金一圓八十錢 (但シニ食附)
 電話(小石川)三二六五番

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器
 關内藥局
 電話四〇番

お客様本位の……
 好適の眼鏡
 平一常盤屋時計店

磐城名産
 らか鹽と節鯨

魚問屋
 店理代平命生本日大最優最
 榮盛賀志
 番三一電 目丁四平

花外科 專門
 木村外科醫院
 入院自炊の便あり
 平町五丁目橋際
 電話三〇九番

新歸朝斯界の麗人
 天勝一座五十余名出演
 特別補導出演 松旭齊天外師
 大魔術、歌劇、寸劇、ジャズ、大レビュー
 毎日大景品呈上、特に平行進曲上演
 二十一日より
 向五日間五時開演
 聚樂館

プログラム (毎演替り)
 1、劍劇レビュー
 2、龍宮後々物語二景
 3、小奇術
 4、歌曲
 5、歌劇レビュー二景
 6、大魔術 天外師
 7、新ボルトビル十種
 8、大レビュー
 9、銀座行進曲二景
 10、歌曲奇術
 11、文福茶釜二景
 12、大奇術 天勝
 12、平行進曲

耳鼻咽喉科専門
 大和田醫院
 平町南町
 電話一七〇

政友雪辱成るか

民政再勝するか

話題の中心此處に集る

▽濱三郡の顔ぶれ

議會は豫想通り解散となり、平地方の人々は廿日の總選舉日を指折り數へて神經が極度に緊張し、注意の總べては『選舉』の二文字に集中されて仕舞つた殊に濱通りは現在民政、政一の分野となつて居り政友の雪辱成るか、野黨民政がさい度榮冠を握るか話題の中心は此處にある。顔ぶれを見るに、佐昌平の兩氏のさい起と見られて居る一方に反氏家側から釘本氏をとの聲あると同時に野崎派は比佐氏を壓倒すべく野崎滿藏氏の蹶起を促すと傳へられ形勢混屯として一騷動免れ難しと見られ政友派からは木村清治氏のさい起、金成通氏佐藤庄太郎氏、松本孫右衛門氏、夫れに縣議戰を保留した少壯の鈴木辰三郎氏多士濟々の觀があり無黨黨は未定の型で黨勢擴張一點張らしいと

勇士の遺骨平驛へ

平町の盛大な見送り

既報石城郡上遠野村出身の故大久保上等兵の遺骨は廿一日の若松市の慰靈祭を終え廿三日若松市を出發同日の午前十時三十三分平驛着常磐線午前十四時四十二分平

戦はずして敵を壓倒す

廿九聯隊茶村校寄 (四)

聖壽の萬歳を唱へて歩武堂々溝部子に入り其南方益家屯及張家窩棚に宿營す溝部子驛附近には支那軍

豫銀行指定

農會の協議

石城郡農會では廿七日午前十時より樓上に於いて評議員會を開催左記の件に就いて協議を行ふと

- △昭和五年度郡農會事務の狀況並に決算の件
- △昭和七年度郡農會收支豫算の件
- △昭和七年度郡農會經費額收入方法の件
- △預金銀行指定の件其他

配給米値上

小野田炭礦で

石城郡磐崎村小野田炭礦では炭礦従業員に配給する米價は従來 升に付十八錢であつたが全國的な米の高値の爲め元日に一錢高の十九

錢、十五日に復々廿錢に上げ、最近再び一二錢の高値を見る模様で勞働者は一日々上る米價に眼を廻して居る

小作維持 資金打合

六年度小作農家の維持資金貸付に關し郡下より應募した四十名並に地主等を今明の兩日郡農會に召集し資金借入に關する打合せと各希望者の生産能力及び資力等に就いて調査を行ふ縣農事課の小作官補丸山太郎氏が出席した

七月頃には湯本へ好間川の水が注ぐ

石城郡湯本町では工費卅四萬七千圓で水道敷設工事中であるが石城郡内郷村大字藤棚から湯本町宇傾城までの送水管建設はすでに完了しこの程石城郡好間村大瀧江筋水路取入口の工事に着手又内郷村地内における導水路隧道掘鑿は延長千七百メートルのうちすでに千二百メートルを掘進しその他濾過地や配水池の工事も豫想外に進捗し配水管の敷設もまた同町傾城から上町まで

町村長支會が總會の打合せ

石城町村長支會では廿六日午前十時から平町役場會議室に評議員を開會し近く開かれる總會に就いての打合せ會を行ふと

福貯の代理店 福島貯蓄銀行では石城郡湯本町木村徳三郎方及び四倉町長谷川儀平方に代理店を設置

て到瓜先日齊々哈爾濱の比にあらず久振りに支那家屋に滞在し『アンペラ』にさし込む朗かなる新春の陽光を浴びつゝ出發以來旬日の疲勞も快復し、一同元氣旺盛にして六日再び聯隊主力は營口に宿營する豫定なり (終)

で幹線が完成したので大體來る七月中には濾過せず好間川の水をそのまま町に送るならば各戸へ給水し得る見込みとなつた、濾過設備その他一切の竣功は九月となる豫定であるが、かくて多年飲料水缺乏に悩まされてゐた同町多年の懸案は解決される譯である

草刈部長榮轉

平署勤務巡查部長草刈長三郎氏は本日綴請願部長派出所勤務を命ぜられたが後任としては同派出所の部長佐藤理助氏であると

滞納差押品

平町で競買

平町では四年度後期分の雜種稅及事業利益稅附加稅の滞納者二百六十名二千六百圓に對し過般差押へをなしたが、これが競買を二十六日午後一時から行ふ事となつた

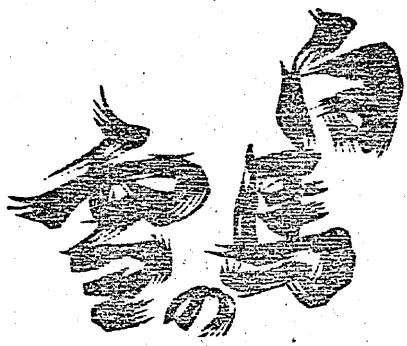
平町人事

回死 村山孝端(七)

營業所開設

倍舊の御引立相仰ぎ度奉懇願候

芳醇銘酒



ハクバのキユ

白馬の雪營業所

辰ノ日本家 松本徳一
電話 五四六番 營業所 二八五番 本店

科病柳花科兒小科内

院醫沼藤

町屋紺町平 番七〇五話電

應需院入

科人婦科産

院醫坂井

町田町平 番九五五話電

訓盲院の窃盗犯人

吳服商人に化けて

高飛せんとし平驛で捕る

包み切れぬトランクの中

既報、先般平町堂の前警署、訓盲院に忍入り生徒の腕時計、衣類等時價十五圓餘を窃取逃走せる犯人は其後半警署の嚴重な警戒を逃がれ、平町及び内郷附近にて盛んにコソ泥を働いて居たが、昨夜九時頃平驛内に乗者券を持つた一名の男を密着中の平署員が舉動不審で取調べると茨城縣助川町の吳服行商人で助川へ歸る處との

健氣な夜警員が

取押へた怪漢

一語も發せず

精神病者と判る

今曉午前零時半頃平町胡麻澤鈴木末吉方裏庭の柵を破つて乗り越え押し入らんとする一名の怪漢を家人が發見大聲を擧げて救ひを求めた處折柄同家附近を通り合した同町

夜警員 樋口元次(三)

が聞き付け逃走せんとする怪漢を追つて取押へやうとするや抵抗して大格闘となり夜警員は健氣にも右手顔面等に傷を負ひ乍も遂に取

歴代稅務署長が

手を焼いた整理

平稅務署では管内各町村の稅金滞納額が多額に上り且又礦山採掘權の滞納多きには時節柄惱まされてゐる殊に同署の歴代署長が整理に努力を拂ひつゝある郡下

八圓十三錢

愈よ……
勿來の産米共販
更らに騰貴

石城郡勿來町信用購買利用組合の産米共同販賣は廿日同所にて行はれたが四等十俵百俵外百九十六俵合計三百六俵で四等建値八圓十三錢を以つて錦村の正本次郎兵衛氏に落札されたが同建値に十八日の神谷村信用組合の共同販賣より十錢高である

濱三郡聯合 茨城縣 茨城縣人會

ては來る四月櫻花期の博覽會に際し平町において濱三郡の聯合縣人會を催すべく目下それ／＼準備中であるが因は石城聯合會會長は植田町水電社長に金成通氏である

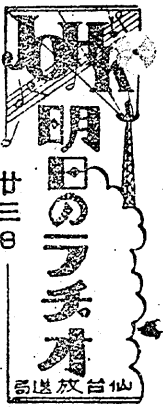
中小業者低資

中小業者者に対する低利資金融通が發表されると共に平町の商工業者中融資を希望するもの多く廿日までに出願者五十四名中込金額十九万余圓に達し役場では受付に忙殺されてゐる

大寒と思へぬ暖かさ

天氣は今後も續く

大寒入りの二十一日未明までは氣温も低目になつてゐるが日中は大寒と思へぬ暖



明日のラジオ

今晩の部
後六、〇〇(子供の時間) 管絃樂 東京ラヂオオーケストラ
後七、三〇 講演「健康と疾病の岐れ道」大阪帝大教授醫學博士片瀬淡
後八、〇〇 講演「伊達に咲く花男裝の美女」終席若柳燕嬢

明日の部
後八、四〇 新曲「飯坂八景」飯坂小唄二色松外
後九、一〇 管絃樂 コロナオーケストラ
後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告
後九、一〇 料理献立「寄せ鍋」辰木ナカ

夫婦生活が嫌で

二度の勤めへと

遊女上りが家出

亭主は驚いて搜索願ひ

鎌田遊廓上りの女三原ハナ(三)は山形市藥師町日雇業小倉三五郎(三)の内縁の妻となつて居た處は最近夫婦生活に倦怠を覺え夫が

夫の不行跡に

愛想を盡して

死に場所を探す美人

昨夜十一時頃平驛構内を徘徊する一名の美人あり構内取締の巡查が不審に思つて問ひ質すと山形縣東置賜郡新庄町野崎ミイ(三)とて名古岸市住吉町齊藤銀次郎に嫁いだが夫の不行跡に愛想を盡し家出したが實家にも

中野氏逝く

石城郡

前一〇、三〇 家庭講座「おもしろい話」榮養研究所 技師井上憲政
後〇、〇〇 尺八本曲と新日本音楽都山流浪華團
後二、〇〇 家庭講座「等曲」(一)宮城道雄
後六、〇〇(子供の時間) をどり、おけいこ「子供」のテキスト 特選童謡舞踊花柳珠實
後七、三〇 英語講座「中等科」(一)の六、梅谷與一
後七、三〇 講演陸軍大將大庭二郎
後八、〇〇「歩兵聯隊八甲田山雪中行軍遭難記念の」

市原醫院

平町田町 電話一四四番

小説



【載轉禁】

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

親族會議 (9)
「あら、自動車なの、直よ」
歌治は急いで表へ出た。
横着になつて居た車は黒塗
のやゝ古ぼけた舊式の物だ
つた。

運転手の顔は注意して見
なかつたけれども、まだ若
い男で籠甲線の大い黒眼鏡
をかけてゐた。

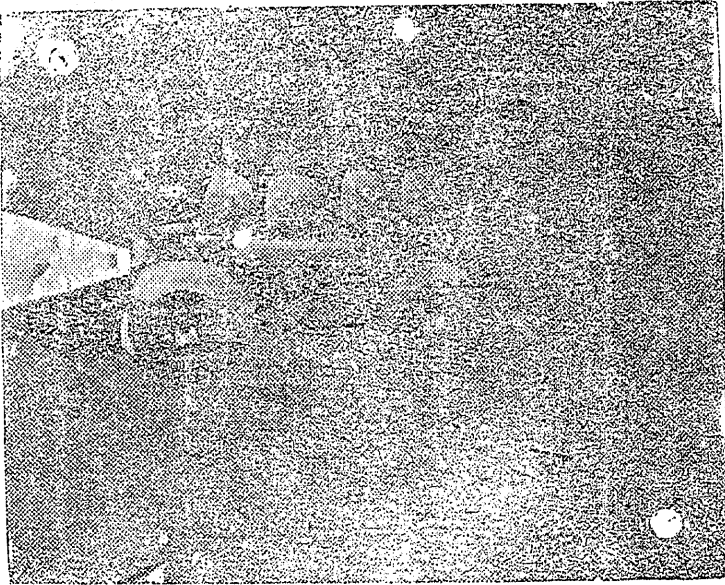
「歌ちゃん。氣をおつけな
さいよ。過日のやうなこと
があるからね」

抱主はふと思ひ出したや
うに、歌治がその車へ乗つ
てから態々沓脱ぎのところ
へ出て来て聲をかけた。歌
治はそれを空耳にうけて、
「ぬい」と氣のない返辭を
した。

「木村さんは大變お待ちに
なつてゐますよ、大いそぎ
で連れて来いッて」
「然うお店は今お取込ぢや
ないんですか」
「え、何だかごた／＼し
てゐます。」

車がスピードを切つてか
らこの間に交された話は只
是だけの短いものであつた
やがて五分も経たぬうち
に歌治はひよいと窓の外を
覗き込んでやつと驚いた
その驚きがはやてのやう
に回轉するタイヤの速度

共に激しい疑惑の渦巻とな
つて彼女の心をかき亂させ
た。後へ後へと流れゆく街
上の夜の姿は、明るい銀座
と日本橋の火の巻でなくし
て、片側に鉛色の水の光を
たゞへた暗い柳の並木通り
淋しい外濠を電車道にそつ



て山の手へ上つてゆくので
あつた。
「ちよいと／＼若い衆さ
ん。
何處へ行くの。間違つた
振をしちや厭よ。日本橋は
いつ此方へ越したのさ、元
談しちやいけないよ。ちよ
いと」

でもそれは余儀なき服従：
言ひやうのない悔しさと危
惧と心細さとは、諦めつ微
笑の下に激しく波打つた。
運轉手は後ろを顧みもせず
にたに前進した。
やがて音羽通りの人影疎
らに巷を左へ／＼たかと思

歌治はひつとなつて前へ
首を突き出させながら各め
立てた。でも運轉手は聲の
やうに澄まし込んで、黙つ
て進行を續けた。
そのうち自動車は飯田橋
へ出て江戸川線を一直線に
走つてゆくのであつた、始
のうちこそ歌治は怒りに悶
へて、いきなり外へ飛び下り
てやらうかとまで思つたが
終まいには不思議と大膽な
考へになつて

「面白いのね。何處に誘き
込んでどうするつもりだか
じつとして見てやらうよ」
と胸を居えるやうにな
ふうちに森影黒く日をか
した雑司ヶ谷へ入つて狭い
横丁を縫つても過ぎつ凹凸の
多い路らしく車は船のやう
に動揺した。をり／＼寺院
らしい所の前を掠め去つて
垣のあなたに石塔が淋しく
列んでゐる所などもらりと
目に見せた。
程なくがたりと車が止つ
た歌治は何處の場末だか分
らなかつた。
只窓から覗いた瞬間に、
青きりと茗荷がごた／＼密
生してゐる藪地、片側には
かなめもちの長い生垣があ
つた。
運轉才の黒眼鏡はひらり
と飛下り昇降台の戸を外か
らおさへつけながら呼び子
をビュッと吹いた。と、
生垣の中程についた板戸を
開けて、其處から三四人の
男がばらばらと飛出して來
た。

大塚の 學生靴!!!

耐久新製品
編上靴 六・〇〇
半靴 五・〇〇

不安心なるキカイ靴
り、安心得る弊店の靴
を……

大塚 支店製靴部
電話七七番

美味! 芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

市原醫院

平町田町(電話一一四番)

入院隨時

内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋毒 市原三三男

セメント 磐城セメント株式會社
壁用材料
コールタール 代理店
ペンキ塗料
板ガラス

西村屋藥舖
平町二丁目(電話三)

高久病院

院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄

内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻喉科 レントゲン科

平町田町 電話五一三番

一册の代金で 御希望通りな

五册の雜誌が 自由に讀める

川崎 回文庫
電話六三〇番
(申込次第規則書進呈)

看護婦急派
の求めに應
じます

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番